

第40回 越馬徳治科学賞

～ 平成14年度受賞者・受賞校の業績 ～

平成14年度の越馬徳治科学賞の表彰式・助成金交付式は、平成15年2月14日(土)に、石川県教育センターで、業界や学校関係者参列のもとに行われ、戸上一浩会長から一人一人に賞状・助成金ならびに記念品などが授与された。(本文中の勤務校や所属は14年度のもの)

なお、個人表彰11名の方々は当日夕刻より行われた石川県科学教育振興会設立40周年記念祝賀会において紹介を受けた。

1. 個人表彰

個人賞

石川県立金沢辰巳丘高等学校教諭 西川 次 正
小松市立南部中学校を初任に、県立金沢中央高等学校、県教育センター指導主事等を経て現在に至る。物理分野における教材を多数開発し、越馬徳治科学奨励研究、県教職員奨励研究等に報告し、高い評価を受けている。また、「青少年のための科学の祭典」等の講師を務め、さらに、平成2年より県高等学校理化部会実験書検討委員等を歴任するなど科学教育の推進に貢献している。

石川県立小松明峰高等学校教諭 南川 文 二
県立加賀聖城高等学校を初任に、同加賀高等学校、同大聖寺高等学校を経て現在に至る。平成12年より2年間、上越教育大学大学院にて「多核緑藻ハネモ(Bryopsis)の多鞭毛遊走子の形成」を研究し、その成果を発表した。「生きた状態で見る体細胞分裂の観察法」「細胞立体構造のイメージ化の試み」など、専門的視点からの教材作成を続けている。また、県高等学校生物部会で実験書の作成や部会誌の編集に携わっている。

加賀市立東和中学校教諭 片野 一 也
山中町立山中中学校を初任に、加賀市立山代中学校を経て現在に至る。理科部の指導にあたりすぐれた業績を上げ、県児童・生徒科学作品コンクールで入賞を果たした。授業においては「理科好きな生徒を育てる授業」をめざして、教材開発やコンピュータなどの教育機器を活用した授業実践に努力した。また、加賀市教育振興会教育研究部中学校理科研究部長、副部長を務め、理科教育の振興・発展に貢献している。

小松市立丸内中学校教諭 田中 守
小松市立板津中学校を初任に、同松陽中学校を経て現在に至る。平成13年より金沢大学大学院教育学研究科(修士課程)に入学、日本理科教育学会全国大会において、「中学生の天体に関する方位概念の研究」で一般研究発表を行っている。また、科学技術振興事業団の事業ではデジタルコンテンツを用いた授業案を開発、授業を行った。県理科教育研究大会や小松市理科教育研究会などの役員を務めるなど小松市の理科教員のリーダー的な存在として活躍している。

金沢市立港中学校教諭 山本 英 喜
金沢市立高岡中学校を初任に、県教育センター指導主事等を経て現在に至る。地質学・古生物学を専門とし、金沢市委託研究、越馬科学奨励研究、日本地学教育学会等で、授業設計・教材開発・視聴覚機器活用法等の研究を多数発表している。また、地学に関する紀要を多数執筆し、野外観察ガイドブックも出版(共著)している。県内教育委員会からの委託調査や、研修講座の講師も数多く務めている。

輪島市立河原田小学校教諭 表 富士夫
山中町立山中小学校を初任に、輪島市立河井小学校、同大倉小学校、同大屋小学校、同鳳至小学校触倉島分校を経て現在に至る。その間、地域の教材や教具の開発に精力的に取り組んだ。実験・観察講座の講師や各種研究大会での発表、また各校の理科室整備等の業績がある。とりわけ、県や市、公民館等が実施する自然教室等で長期にわたり天体観察会を実施し、その業績は高く評価されている。

志賀町立上熊野小学校教諭 中谷 晃 一
金沢市立押野小学校を初任に、志賀町立志加浦小学校、同土田小学校、同下甘田小学校を経て、現在に至る。志賀町の自然を多面的に調査し、教材化することにより、体験的に学ぶ教育実践を一貫して推進しており、地域の児童の育成や地域の教員の意識向上に貢献している。また、地道に科学作品の指導をし、児童の問題解決能力を引き出すことによって、多数の優秀な作品を県児童・生徒科学作品コンクールに出品している功績も大きい。

金沢市立中村町小学校教諭 村田 万里子
金沢市立夕日寺小学校を初任に、同浅野町小学校、同田上小学校、米泉小学校を経て現在に至る。初任より継続的に理科の授業について地道に研究を続けている。児童に対してもよく指導し、県児童・生徒科学作品コンクール、発明工夫展等にも精力的に作品を応募している。また、県および金沢市の研修講座の講師を務めたり、理科学習帳の編集にも携わる等、科学教育の推進に貢献している。

金沢市立西南部小学校教諭 山崎 治
金沢市立此花町小学校を初任に、同菊川町小学校、同額中学校を経て現在に至る。文部省(現文部科学省)指定研究の公開授業や金沢市研究会での研究授業の実践、個人委託研究、県教職員奨励研究への応募等、熱心に研究を続けている。また、各種コンクールに指導作品を応募し受賞するなどの功績があるが、中でも昭和63年より金沢市児童科学教室の指導員として継続的に児童の指導に携わってきたことは高く評価される。

功 勞 賞

鹿島町立鹿島中学校校長 辻 森 勝 弥
能登島町立西部中学校を初任に、中島町立中島中学校教頭、能登島町立能登島小学校長、鹿西町立鹿西中

学校長を経て現在に至る。その間、視聴覚教材や機器を活用したり、新しい教材や実験器具を開発するなど、「楽しくわかる理科授業」をテーマに研究に取り組んできた。また、県科学教育振興会理事、県理科教育研究協議会会長を歴任し、理科教育の振興・発展に大きく貢献した。

金沢市立高尾台中学校校長 守 直 弘
 珠洲市立大谷中学校を初任に、金沢市立医王山中学校教頭、同高岡中学校教頭、同紫錦台中学校長を経て現在に至る。その間、文部省（現文部科学省）指定研究、個人委託研究など県内外の研究に応募し、優れた業績を修めた。特に、「音さを使った落下運動の記録方法」は高い評価を受けている。また、生徒の科学作品を指導し、数多くの発表会・コンクールで入賞に導くなどの業績を修めた。

2. 学校表彰

石川県立金沢泉丘高等学校（校長 新村 健了）
 当該校の化学部は昭和25年に創部され、研究の成果はこれまでも日本学生科学賞中央審査に12年間入選・入賞を果たし、特賞を2度受賞するなど全国的にも高い評価を受けている。平成11年度より、銀廃液などの無機化合物リサイクルに取り組み、今年度発表した「銀のリサイクルと江戸時代の写真術」は中央審査で高等学校16選に選ばれ、環境大臣賞を受賞した。

金沢市立大徳中学校（校長 北川 彬人）
 当該校は科学研究活動への意欲が高く、平成12年度の高峰賞学校賞優秀賞、平成13年度日本学生科学賞石川県審査学校賞優秀賞、平成14年度第1回金沢商工会議所会頭賞など多くの実績を残してきた。県児童・生徒科学作品コンクールにおいても優秀な作品を多数出

品、金沢市の中学生サイエンスクラブ員も多く、生徒の科学的な活動を推進している。

金沢市立西南部小学校（校長 堀田 修）
 当該校は、ここ数年来、科学に対する興味・関心を高め、理科好きな子ども達を育成するために、発明工夫展を中心にしたものづくり活動や科学作品の指導に力を入れてきた。また理科委員会を中心に「おもしろ科学月間」という継続的な活動の企画運営をする等、科学教育の啓発活動を行ってきた。これらの活動は教育論文として発表し、県内外から高い評価を得ている。

3. 学校助成

小・中・高校をつなぐ理科教育を積極的に推進している学校への助成金交付。平成15年度の「小・中・高校をつなぐ県理科教育研究大会」開催校に交付した。

石川県立羽咋高等学校（校長 丸田 恒彦）
 羽咋市立邑知中学校（校長 石田 護）
 羽咋市立西北台小学校（校長 細川 聡）



科学教育振興会設立・越馬徳治科学賞40周年記念事業

記念事業開催にあたり、来賓の皆さまを始め、会員各位の多大なるご協力・ご支援を賜り厳粛且つ盛大に終えることができ、事務局一同喜んでおります。皆さまに厚くお礼申し上げます。

【記念祝賀会次第】

平成15年2月14日(金) 18:00～20:00
 金沢全日空ホテル 鳳の間
 表彰式(18:00～18:30)
 会長挨拶
 祝 辞 石川県知事
 金沢大学学長
 科学教育振興功労者表彰
 謝 辞
 記念祝賀会(18:30～20:00)
 乾 杯 石川県議会議長
 アトラクション 和太鼓「夢雅」
 万 歳



谷本正憲石川県知事の祝辞



歴代越馬科学賞受賞者も旧交を温めた